



2019年3月期（123期）

決算説明資料

2019年5月14日

グンゼ株式会社

(証券番号3002)



I . 2019年3月期 決算概要

I-1. 2019年3月期 業績

連結業績

(単位：百万円)

	2019年 3月期	2018年 3月期	対前期		利益率	
			増減額	増減率 (%)	2019年 3月期	2018年 3月期
売上高	140,706	140,521	184	0.1		
営業利益	6,690	6,239	450	7.2	4.8%	4.4%
経常利益	7,152	6,446	705	11.0	5.1%	4.6%
親会社株主に 帰属する 四半期純利益	4,087	3,486	600	17.2	2.9%	2.5%

主たる特別損益

- ・ 関係会社株式売却損：△4億円
- ・ 関係会社株式評価損：△2億円

I-2. 決算サマリー

機能ソリューション事業

(単位：億円)

対前年 増減		主なポイント
売上高	24	<ul style="list-style-type: none"> ◆ プラスチックフィルムは、主力のシュリンクフィルムが国内・海外ともに堅調、ナイロンフィルムも好調に推移 ◆ エンジニアリングプラスチックは半導体市場向け、産業機器向けが引き続き好調に推移
営業利益	7	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 電子部品では、業務用タッチパネルは堅調に推移し、中国工場も採算性が改善 ◆ メディカルは、縫合補強材の国内新販売体制が順調に立ち上がり、人工皮膚も堅調に推移も、治験費用等の増加影響を受ける

アパレル事業

対前年 増減		主なポイント
売上高	△14	<ul style="list-style-type: none"> ◆ インナーウェアは、BODYWILD「AIRZ」などの差異化商品の新展開に加えて、カットオフ等の主力商品、スポーツカテゴリー商品が順調に推移
営業利益	△1	<ul style="list-style-type: none"> ◆ レッグウェアは、ファッションボトムトレンドの変化や天候影響もあり、低調に推移 ◆ 繊維資材は、海外事業環境変化による生産性悪化の影響を受ける

ライフクリエイト事業

対前年 増減		主なポイント
売上高	△8	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 不動産関連では、ショッピングセンター事業は地域に密着した運営により堅調に推移、また賃貸事業は新規物件が貢献
営業利益	△1	<ul style="list-style-type: none"> ◆ スポーツクラブは、競争激化により苦戦

I-3. セグメント別業績

(単位：百万円)

	売上高			営業利益 (下段：利益率)		
	2019年 3月期 (2018年度)	2018年 3月期 (2017年度)	増減	2019年 3月期 (2018年度)	2018年 3月期 (2017年度)	増減
機能 ソリューション	53,234	50,828	4.7% 2,406	6,160 11.6%	5,381 10.6%	14.5% 778
アパレル	72,609	74,012	△1.9% △1,403	2,507 3.5%	2,628 3.6%	△4.6% △121
ライフ クリエイト	15,285	16,122	△5.2% △837	1,241 8.1%	1,386 8.6%	△10.5% △145
合計	140,706	140,521	0.1% 184	6,690 4.8%	6,239 4.4%	7.2% 450

I-4. セグメント別構成比

ライフクリエイト

売上高
11%

営業利益
13%

売上高
51%

営業利益
25%

アパレル

売上:1,407億円
営業利益:66億円

機能ソリューション

売上高
38%

営業利益
62%

I -5. 特別損益

(単位：百万円)

	2019年 3月期	2018年 3月期	増減
関係会社株式売却損	-450	-84	△366
関係会社株式評価損	-277	-	△277
減損損失	-	-597	597
事業構造改善費用	-	-281	281
その他特別損益	-130	-209	79
特別損益合計	-857	-1,171	314

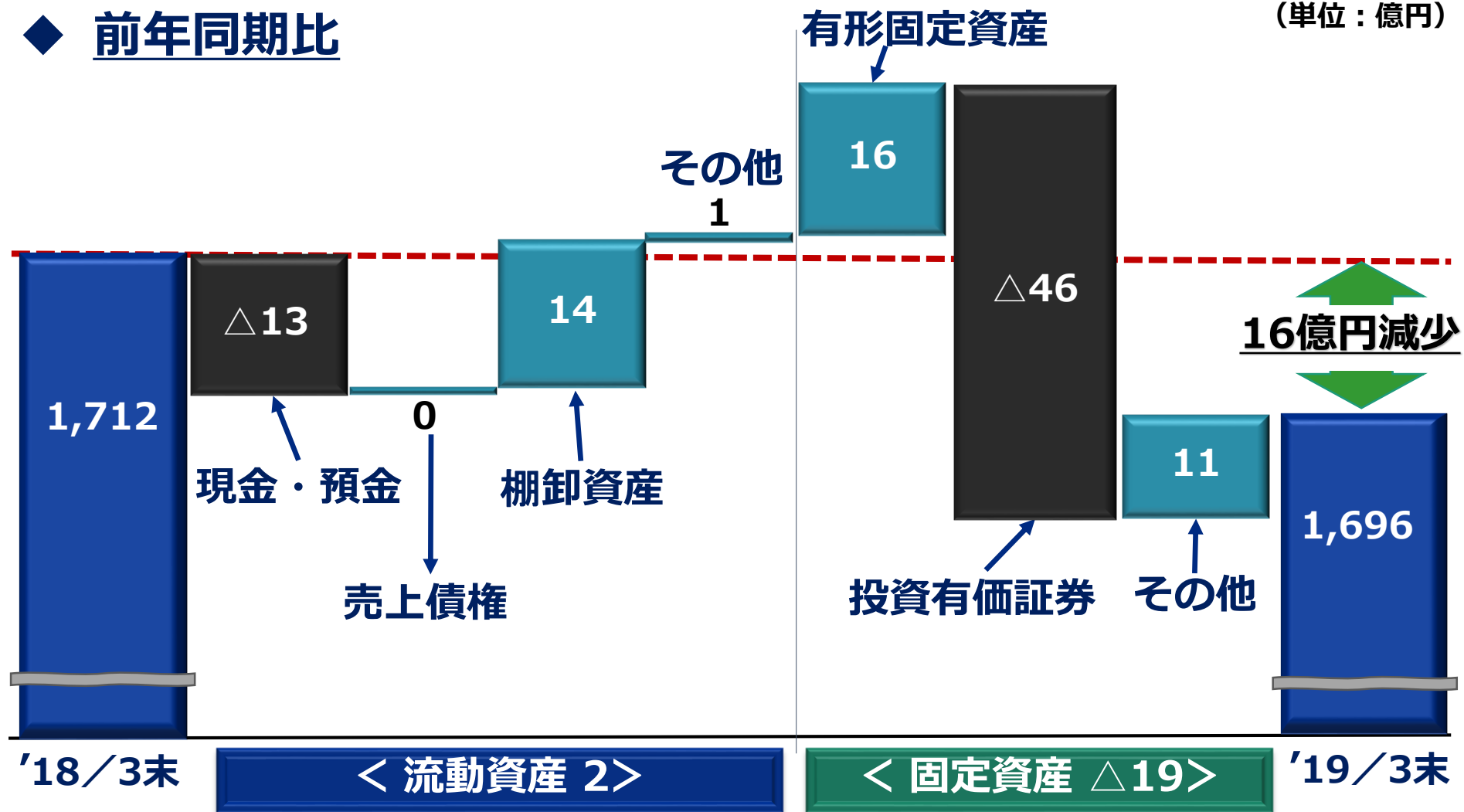
I -6. 主要財務・経営指標(連結)

	単位	2019年 3月期	2018年 3月期	増減
ROA:総資産営業利益率	%	3.9	3.7	0.2
ROE:自己資本当期純利益率	%	3.7	3.2	0.5
総資産	百万円	169,632	171,273	△1,640
自己資本	百万円	109,506	111,141	△1,635
自己資本比率	%	64.6	64.9	△0.3
有利子負債額	百万円	26,242	28,374	△2,132
BPS : 1株当たり純資産	円	6,059.06	6,084.46	△25.40

I-7. 資産の増減内容

◆ 前年同期比

(単位：億円)



I-8. キャッシュフロー

キャッシュフロー

(単位：百万円)

	2019年 3月期	2018年 3月期	増減
営業活動	11,491	9,007	2,484
投資活動	△7,373	△5,954	△1,419
FCF	4,118	3,053	1,065
財務活動	△5,483	△1,783	△3,699
現金及び 現金同等物 期末残高	8,102	9,477	△1,375

■ 主な営業CF

税金等調整前当期純利益	6,295
減価償却費	6,532
たな卸資産の増加	△1,247

■ 主な投資CF

固定資産の取得による支出	△5,891
子会社出資金の取得による支出	△1,685

■ 主な財務CF

長期借入れによる収入	3,000
長期借入金の返済による支出	△5,363
配当金の支払	△1,648
自己株式の取得による支出	△1,327

I-9. 設備投資と減価償却費

◆ 前年同期比

(単位：百万円)

	設備投資			減価償却		
	2019年 3月期	2018年 3月期	増減	2019年 3月期	2018年 3月期	増減
機能ソリューション	3,152	1,991	1,161	2,665	2,667	△2
アパレル	1,335	1,176	159	1,342	1,413	△71
ライフクリエイト	2,096	1,040	1,056	2,073	1,880	193
その他	761	1,327	△566	568	566	2
合計	7,346	5,536	1,810	6,650	6,528	121

■ 今期の主な投資実績

商業施設整備及び賃貸住宅新築

スポーツクラブ新規出店及び既存設備整備

プラスチックフィルム生産設備

インナー生産設備及びシステム開発



Ⅱ．事業セグメント別の概況

Ⅱ-1. 事業概況

◆ 機能ソリューション事業 1

■ プラスチック

業績拡大のなか、新市場・新商品の開発とグローバル生産体制を更に強化

◆ 製品群	概況
平板収縮	・ 暖冬によるHOT飲料不振の影響があるも、通年飲料や非飲料用途で好調
ナイロン	・ 冷凍耐ピンホール用途の拡大やピザ用途などが好調
工業用品	・ 半導体市場が低迷し、中国、台湾での減産影響を受ける
OPP	・ 暖冬で露地野菜が安価に推移し、工場野菜用途が影響を受ける
グローバル	・ ASEAN中心にトイレタリー向けハイブリッドが好調



■ シュリンクフィルム

■ エンジニアリングプラスチック

主力OA市場向け商品及び半導体関連製品の拡大

◆ 製品群	概況
OA向け機能商品	・ 市場縮小傾向も、付加価値製品の開発でシェア拡大
非OA分野	・ 半導体市場向けの消耗部材需要に対応し拡大



■ フッ素樹脂小口径収縮チューブ

Ⅱ-2. 事業概況

◆ 機能ソリューション事業 2

■ 電子部品

社内のフィルム事業分野とのシナジー効果を追求し
 事業採算化

◆ 製品群

概況

- | | |
|--------|------------------------------------|
| フィルム販売 | ・ OCA好調も、前年事業譲渡した台湾子会社実績分はカバーできず苦戦 |
| タッチパネル | ・ 産業用機材向けPCAPや車載用途が好調 |
| その他 | ・ 受託加工は、試作案件が量産化に向けて拡大 |



■ ウエットコーティングシステム

■ メディカル

更なる成長に向け国内新販売体制をスタート
 新工場を含めたグローバルな事業運営体制の充実拡大

◆ 製品群

概況

- | | |
|-------|---|
| 組織補強材 | ・ 国内向けは直販化で好調も、北米向けは受注調整の影響を受ける |
| 骨接合材 | ・ 国内販売は好調も中国向けが医療制度改革の影響を受け苦戦 |
| 人工皮膚 | ・ 国内は「ペルナックGプラス」の本格販売が好調に推移
海外は中東向けが拡大 |
| 縫合糸 | ・ 国内・海外ともに好調、欧州では美容整形用途が伸長 |



■ ペルナックGプラス

Ⅱ-3. 事業概況

◆アパレル事業

■ インナーウェア分野

オリジナル差異化技術を強みに主カブランドの更なる拡販
 成長チャネルである直販ルートと海外販売を強化

● 差異化商品、成長チャネルが拡大も、レディースが伸び悩む

- メンズ
- BODYWILDは、AIRZヒットにより大幅伸長
 - YGは、カットオフ、ダブルホットシリーズが好調
 - Adidasを中心にスポーツカテゴリが大きく伸長
-
- レディース
- KIREILABOはE Cは好調も、量販店チャネルが苦戦
 新シリーズ「hada+」は好調
 - Tuchéは新シリーズ「LACY AIR」が好調



■ レッグウェア分野

市場トレンドと消費者潜在ニーズを先取りした新市場・
 新商品の開発

● ストッキング、ソックスとも低調に推移

- 暖冬の影響を受け、タイツや高価格帯のパンストが不振
- レギンスが好調も、全体の底上げには至らず



Ⅱ-4. 事業概況

◆ライフクリエイイト事業

■不動産関連分野

新規賃貸事業の推進及び商業施設運営体制の見直しによる収益力の向上

●SC事業の現況

- ・つかしん：来街客数は災害による三日間の休業影響等により減少も
デイリー商材強化によりテナント売上は過去最高を更新

●不動産賃貸事業の現況

- ・賃貸住宅は、新規物件により増収増益（鳥取県倉吉市、東京都杉並区）



■つかしん（兵庫県尼崎市）

■スポーツクラブ分野

海外を含む多店舗展開による売上拡大と効率運営

●スポーツクラブの営業状況

- ・既存店は、新業態ジムとの競争激化により新規会員の獲得が低調に推移
- ・新規店は、吹田健都、吹田ミリカの連携強化による吹田フリープランで会員拡大
ピエラ明舞（19年4月開業）は開業前会員数の目標クリア
- ・海外(カンボジア) は、イオン店が周辺の開発遅れの影響もあり苦戦



■グンゼスポーツ吹田健都店



Ⅲ. 今後の見通し

Ⅲ-1. 2019年度経営方針(1)

CAN 20目標の早期達成に向け、
 プロセスを明確にして自らデザインした
 2019年度計画を実行する。

売上	147,000	百万円
営業利益	7,000	百万円
経常利益	6,800	百万円
純利益	4,300	百万円

Ⅲ-2. 2019年度経営方針(2)

成長実現

もっと売って、もっと改善して、もっと儲けて、
活気のある会社に変革しよう

生産革新

- 「NExT運動」の継続推進
- P値3%以上

売上伸長

- 市場の深掘り
- ストレッチプランの実行
- アパレル事業の拡大

資本コスト経営

- GVA向上

働き方改革

皆が活躍できる会社へ

- 高付加価値への集中
- 改革を成果へ

人財育成

- 自ら行動できる人財へ
- 機会の創出

事業活動で持続可能な社会に貢献

Ⅲ-3. 2019年度見通し

機能ソリューション事業

- ・プラスチックフィルムは、業績が拡大しているなか、新市場・新商品の開発とベトナム新工場を立ち上げグローバル生産体制を更に強化
- ・エンジニアプラスチックは、主力OA分野向け商品及び半導体関連等繊維技術製品の拡大のため、江南工場の増設を計画
- ・メディカル分野は、新たに（株）メディカルユーアンドエイを子会社化し骨接合材等の拡大を目指す

アパレル事業

- ・インナーウエア分野は、BODYWILD「AIRZ」の展開店舗拡大に加え、完全無縫製・カットオフ商品、スポーツカテゴリー商品を拡販するとともにEC等の新規販路の拡大を図る
- ・レッグウエア分野は、サブリーナ等の主カブランドを核とし、市場トレンドと消費者潜在ニーズを先取りした新市場・新商品開発に努める

ライフクリエイイト事業

- ・商業施設の収益力向上とグループの発展に向けて投資効率を考慮した保有資産の有効活用を推進

Ⅲ-4. 2020年3月期連結業績予想

業績予想

(単位：百万円)

項目	2020年 3月期		2019年 3月期		対前年	
	業績予想	利益率	実績	利益率	増減	増減率
売上高	147,000		140,706		6,294	4.5%
営業利益	7,000	4.8%	6,690	4.8%	310	4.6%
経常利益	6,800	4.6%	7,152	5.1%	△352	△4.9%
親会社株主に 帰属する 当期純利益	4,300	2.9%	4,087	2.9%	213	5.2%

Ⅲ-5. セグメント別業績予想

セグメント別の対前期比較

(単位：百万円)

	売上高			営業利益 (下段：利益率)		
	2020年 3月期 (2019年度)	2019年 3月期 (2018年度)	増減	2020年 3月期 (2019年度)	2019年 3月期 (2018年度)	増減
機能 ソリューション	58,300	53,234	9.5% 5,066	6,300 10.8%	6,160 11.6%	2.3% 140
アパレル	73,300	72,609	1.0% 691	3,000 4.1%	2,507 3.5%	19.7% 493
ライフ クリエイト	15,900	15,285	4.0% 615	1,300 8.2%	1,241 8.1%	4.8% 59
合計	147,000	140,706	4.5% 6,294	7,000 4.8%	6,690 4.8%	4.6% 310

Ⅲ-6. 設備投資と減価償却費

◆ 2019年度計画

(単位：百万円)

	設備投資			減価償却		
	2020年 3月期計画	2019年 3月期実績	増減	2020年 3月期計画	2019年 3月期実績	増減
機能ソリューション	4,800	3,152	1,648	2,400	2,665	△265
アパレル	1,600	1,335	265	1,500	1,342	158
ライフクリエイト	2,600	2,096	504	1,800	2,073	△273
その他	500	761	△261	800	568	232
合計	9,500	7,346	2,154	6,500	6,650	△150



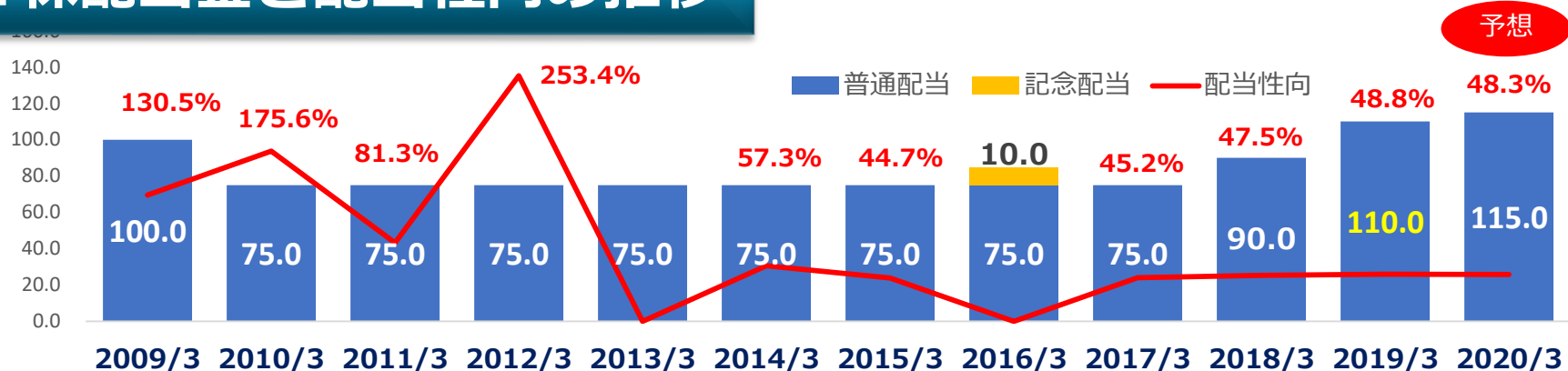
次期の 主な 投資計画

エンジニアリングプラスチックス生産設備	2,800
商業施設整備及び賃貸住宅新築	2,500
プラスチックフィルム生産設備	1,800
インナーウェア生産設備	800

Ⅲ-7. 株主還元(1)

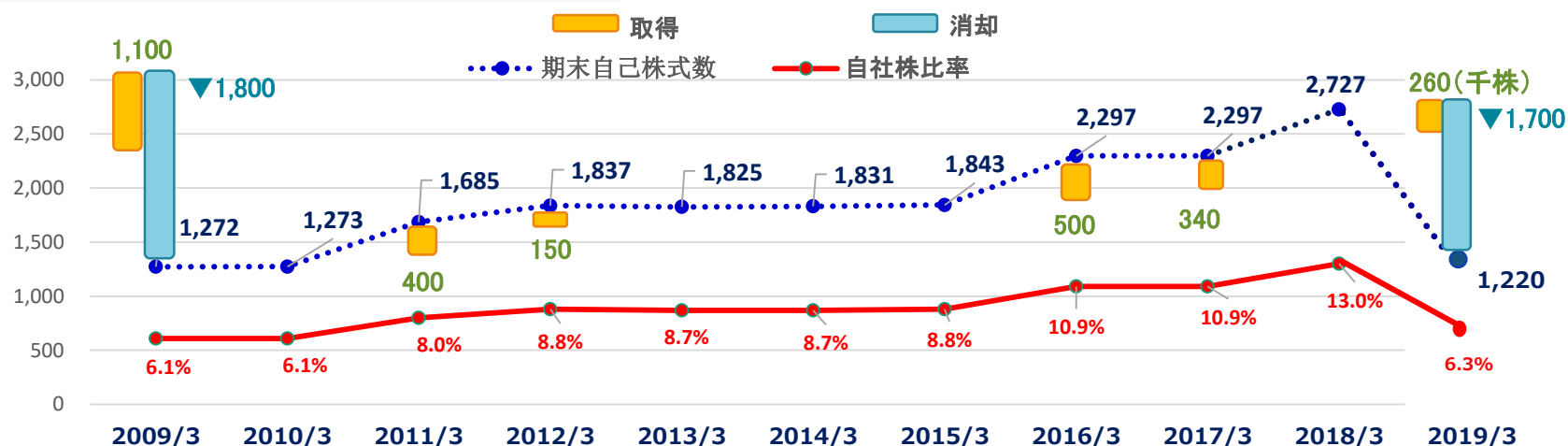
1 株配当金と配当性向の推移

(単位：円)



自社株の状況

* 2017年10月1日からの株式併合(10株を1株)に合わせて、2017年3月末以前の株数を換算しております



CAN20第2フェーズでは、連結配当性向50%、総還元性向100%を目途に利益還元を行う方針です

Ⅲ-8. 株主還元(2)

■ 剰余金の配当（増配）に関するお知らせ

	決定額	直近の配当予想 (2018年5月14日公表)	前年実績 (2018年3月期)
基準日	2019年3月31日	同左	2018年3月31日
1株当たり配当金	110円	100円	90円
配当金の総額	1,995百万円	－	1,654百万円
効力発生日	2019年6月26日	－	2018年6月27日
配当原資	利益剰余金	－	利益剰余金

2019年3月期の配当金につきましては、直近の配当予想に対して10円増配し1株当たり110円とさせていただきます。よって前期実績90円から20円の増配となります。

■ 自己株式取得に係る事項に関するお知らせ

・取得の内容

取得する株式の総数	当社普通株式 42万株（上限）
株式の取得価額の総額	2,100百万円（上限） 発行済株式総数に対する割合 2.18%
取得期間	2019年5月15日から2019年12月20日まで

第124期（2020年3月期）配当は、115円／株を予定しております

Ⅲ-9. 役員人事について

■ 新任取締役候補

鯨岡 修 (くじらおか おさむ) 非常勤、社外取締役候補

■ 退任予定取締役

白井 文
高尾 茂樹

(注) 上記はいずれも2019年6月25日付の予定

明日をもっと、こちよく

GUNZE

本資料のうち、業績見通し等に記載されている内容は、現在入手可能な情報による判断に基づいたものであり、記載された将来の計画数値、施策を保証するものではありません